

# 平城宮北面大垣の調査

## 一第 648 次

### 1 調査の経過

**調査に至る経緯** 当調査は奈良市佐紀町における個人住宅建設にともなう発掘調査である。特別史跡平城宮跡内にあたり、遺構面および北面大垣の遺存状況の確認を目的として実施した。

**作業の経過** 2022 年 7 月 20 日に基準点測量および調査区の設定、レベル移動をおこなった。7 月 25 日から重機掘削を開始し、順次人力掘削に切り替えて遺構検出をおこなった。7 月 28 日に調査区全景写真の撮影をおこない、同日に遺構実測をおこなった。7 月 29 日に追加調査をおこない、同日に遺構面保護のための砂を撒き、埋め戻しと撤収をおこなって発掘作業を終了した。

当調査では出土遺物が少量であったことから、調査と並行して洗浄・分類・註記作業を実施し、主要な遺物を実測図化した。

### 2 遺跡の位置と環境

調査地は、特別史跡平城宮跡の北端、平城宮北面大垣想定位置に該当する。当調査区付近では奈文研が数次にわたる調査を実施している（図 81）。約 210m 東では、北面大垣 SA2300 やその前身の東西掘立柱塀 SA2330 の遺構を検出した第 23 次調査区（『平城報告Ⅸ』）が位置する。約 104m 東の第 191-4 次調査（『昭和 63 年平城概報』）では SA2330 を検出している。西隣には第 34 次調査区（『平城報告Ⅸ』）、約 17m 東には第 156-3 次調査東区（『昭和 59 年平城概報』）が位置するが、これらの調査区においては北面大垣に関連する遺構は検出していない。第 34 次調査区では中近世の東西溝 SD4315 および近世の土坑 SK4326 を検出している。さらに約 60m 西には SA2330 を検出した第 164-1 次調査区（『昭和 60 年平城概報』）が位置する。

### 3 調査の方法と成果

**調査の方法** 第 34 次調査区と一部重複させ、北面大垣想定位置に東西 5 m、南北 6 m の 30㎡ の調査区を設定した。調査では、GNSS 測量機を用いたネットワーク型 RTK 法で調査区内に基準線を設定し、縮尺 1/20

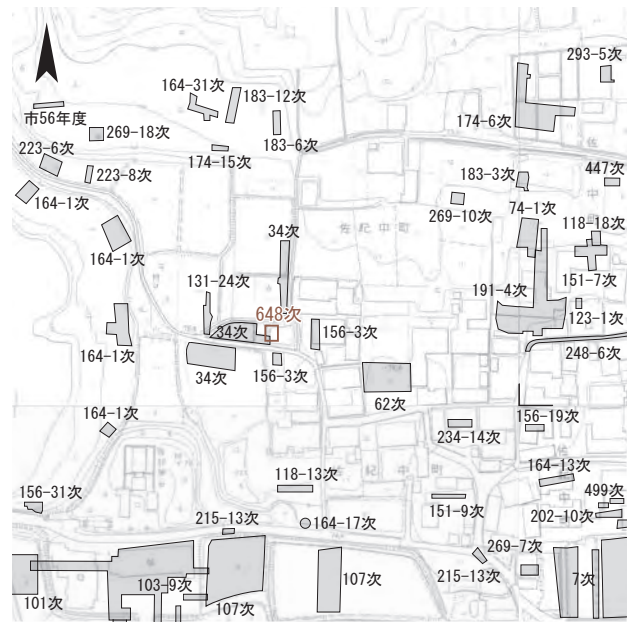


図 81 第 648 次調査区位置図 1 : 3000

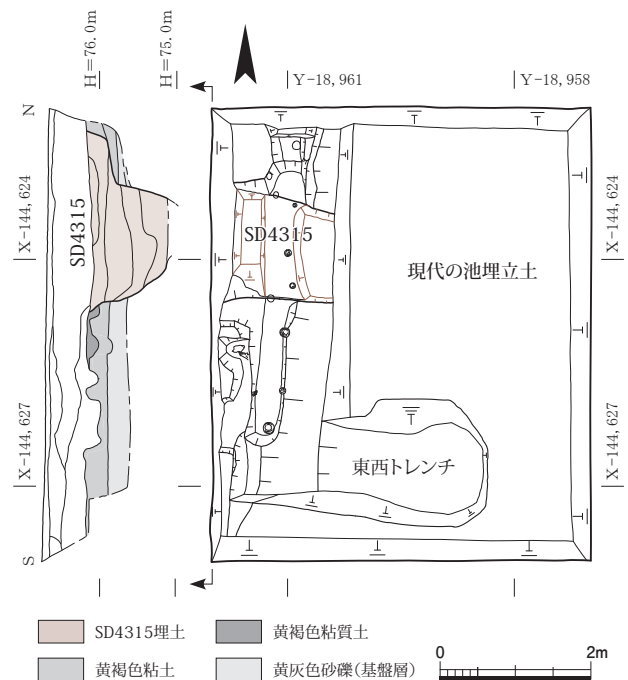


図 82 第 648 次調査区遺構図・西壁土層図 1 : 100

を基本に平面図を作成した。標高は平城 No.14 (X = -145.153.672, Y = -192.44.829, H = 69.071 m) を基準として第 314-1 次調査（2000 年度）で設置した基準点からオートレベルで直接水準測量をおこなった<sup>1)</sup>。調査区の大半は現代の溜池の範囲に位置しており、真砂土で埋め立てられていた。重機掘削によりその真砂土を地表面から約 0.6 m 除去したが、安全確保のため掘削範囲を土層の遺存状態がよい西辺部と北面大垣想定位置に限定した。東西方向のサブトレンチを設定し、重機で真砂土を除去し、遺構の確認をおこなった。調査区西辺部では、重機掘削

